



ゴールデンウィーク 女川町子ども遊び場プログラム



2013年4月28日、29日、宮城県女川町総合運動公園にて、隣接する仮設住宅や近隣の子どもたち、その家族を対象にした外遊びプログラムを行いました。2日間でのべ70人の子どもたち・保護者がYMCAのボランティアリーダーらと思いきり公園遊びを楽しみました。

宮城県女川町は石巻市街地より東へ15km、三陸海岸の南端に位置します。東日本大震災のM9.0の大地震の震源地より一番近い場所の一つで、市街地を襲った津波の高さは約20メートルに達し、町民の9割が被災しました。海沿いの市街地は土地のかさ上げのために、盛土を運ぶ多くのトラックが行き交い、子どもたちの遊ぶ場所が制限されています。YMCA石巻支援センターでは昨年4月より高台にある総合運動公園にて、隣接する仮設住宅の子どもたちを対象に遊び場プログラムを行なっています。

今回のプログラムでは、青年ボランティアリーダーがガガ(囲われたフィールド内でのドッチボール)やクッパ(的当てフィールドゲーム)を紹介したり、公園内を探検したりと、子どもたちの興味に合わせて一緒に様々な遊びを楽しみました。ボランティ



ガガ(囲い転がしドッチボール)で遊ぶリーダーと子どもたち



森で拾った木の実や松ぼっくりを着色し、コップにつめて作品作り



集合写真。この後、誕生日のリーダーに子どもからサプライズプレゼント(木の実アート詰め合わせ)がありました。

ア青年達は、集まった子どもたちの好きな事を引き出して遊び相手になります。

女川町内の3つの小学校は今春より一つに統合され、多くの子どもたちは決められた時間のスクールバスで学校に通うこととなり、不自由な生活を送っています。放課後十分に遊ぶ時間を確保することが難しい状況におかれています。YMCAの支援プログラムは週末や休日に子どもたちの思いっきり遊ぶ時間を提供しています。また、青年ボランティアは子どもたちの思いっきり「遊びたい」「甘えたい」「相手になってもらいたい」という気持ちをしっかり受け止めます。制約の多い日常生活を送っている子どもだからこそ、プログラムの時間だけでも子どもが子どもらしく受け入れられる場所にしたいと願っています。

この女川町子ども遊び場プログラムを一年間継続してきたことで、YMCAの青年ボランティアと会えるのを楽しみにしている子ども達が数十人います。またYMCAの関わりは月に一回程度ですが、それでも「継続して関わり続けている」ということで、子どもたちの保護者から「関心を寄せていることにとっても励まされる」との声を頂きます。震災から2年が経ち、女川町では継続して子ども関係の活動を行なっている団体はわずしかありません。緊急支援が一段落した今や、活動の目的も時間とともに変化しているのを感じます。

東日本大震災復興支援募金

- ・ゆうちょ銀行(郵便振替)
- 振替口座:00120-7-714728
- 名義:公益財団法人 東京 Y M C A
- ・銀行振り込み
- みずほ銀行 神田支店 普通 1677931
- 三井住友銀行神田支店 普通 7656469
- 名義:公益財団法人 東京 Y M C A
- ※「東日本震災」とお書き添えください。